

令和7年度 江戸川区立篠崎第二学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

学校教育目標	光る子 ～人間性と想像力を豊かに、心身たくましく～	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○子供たちが明るく元気に学校生活を送れるように、自己肯定感を育み、認める・褒めることを基本とする教育を推進する学校 ○善悪を正しく判断して、思いやりをもって人と接し、困難にも諦めずに最後までやり抜くことができる児童 ○社会人、公務員としての自覚と認識をもち、指導力向上を図り、職務を遂行することのできる教師
前年度までの本校の現状	成果 ・学校として取り組んでいる内容に関して、80%以上の保護者が、指導に対して効果があると肯定的に捉えている。	課題 ・全国学力調査での都の平均正答率に迫れるような基礎学力の定着 ・児童の体力向上、教職員の学習指導力の定着	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度			「中間」自己(学校)評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		自己(学校)評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント		
学力向上	・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎	・校内研究において、「主体的・対話的で深い学びをつくる授業の工夫」を主題とした授業改善に取り組む。 ・昨年度の区学力調査の結果を分析し、今年度の取り組みに生かす。	・毎回の授業観察を行い、全教員で授業観察、視察を行う。代表授業を行う教員以外の教員も観察できるようにする。主題について取り組める。 ・昨年度の区学力調査の結果を分析し、今後の多岐にわたる取組に生かすことのできるよう、とり組みに取り組んでいる教員を増やした。	C	C	C	・毎回の代表授業を行い、全教員で授業観察、視察を行う。 ・昨年度の区学力調査の結果を分析し、今後の多岐にわたる取組に生かすことのできるよう、とり組みに取り組んでいる教員を増やした。	B	・タブレットを活用した家庭学習ができていると感じている。 ・学校でも活用していると感じる。	B	・毎回の代表授業を行い、全教員で授業観察、視察を行う。 ・昨年度の区学力調査の結果を分析し、今後の多岐にわたる取組に生かすことのできるよう、とり組みに取り組んでいる教員を増やした。	B	・タブレットを活用した家庭学習ができていると感じている。 ・学校でも活用していると感じる。	・学力向上の取組が効果的であった。授業改善の取組が、児童の学力向上に効果的であった。授業改善の取組が、児童の学力向上に効果的であった。	
	・基礎・基本の学力の確実な定着、読書習慣の定着	・補習教室(EDOS、学校別)やオンライン、東京ベージャドリル等を活用し、基礎・基本の学力の定着を図る。年間を通して東京ベージャドリルに取り組み、4、5年生は、学力カルズを活用する。 ・1～3年生は「まごころ」4～6年生は「よむYOMUワーク」を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・ドリルパックを家庭学習において活用する。	・東京ベージャドリル印刷テストの結果の減少率を80%以上にし、5年生においては、読書の減少率が80%以上になる。 ・まごころやよむYOMUワークを授業を行うとともに、保護を自ら家庭で取り組ませる。 ・よむYOMUワークを活用した学習を毎週実施し、学習の成果をノートに記録する。 ・家庭学習におけるドリルパックの活用率を80%以上にする。	C	C	C	・1学期に「まごころ」「よむYOMUワーク」を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・よむYOMUワークを活用した学習を毎週実施し、学習の成果をノートに記録する。 ・家庭学習におけるドリルパックの活用率を80%以上にする。	B	・基礎的な学力が、ついてきていると感じる。 ・タブレット、よむYOMUワークが活用されている。	C	・1学期に「まごころ」「よむYOMUワーク」を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・よむYOMUワークを活用した学習を毎週実施し、学習の成果をノートに記録する。 ・家庭学習におけるドリルパックの活用率を80%以上にする。	B	・基礎的な学力が、ついてきていると感じる。 ・タブレット、よむYOMUワークが活用されている。	・学力向上の取組が効果的であった。授業改善の取組が、児童の学力向上に効果的であった。	
	・読書力の更なる充実	・読書科や各教科、総合的な学習の時間において「読める」「まごころ」「読書する」学習活動を年間計画に取り入れる。 ・公立図書館等と連携を図りながら、授業で学校図書館を利用して、読書科の指導を充実させる。	・全学年が「読べる」「まごころ」「読書する」学習活動を、「読める学習」のまごころを年間2作品以上作る。 ・3学期に、発表する対象を定めた、学習の成果発表を行う。	C	B	C	・全学年が「読べる」「まごころ」「読書する」学習活動を、「読める学習」のまごころを年間2作品以上作る。 ・3学期に、発表する対象を定めた、学習の成果発表を行う。	B	・「読める」「まごころ」「読書する」学習活動については、1学期の読書発表会で発表される。学習の成果は、活用されていると感じる。	B	・全学年が「読べる」「まごころ」「読書する」学習活動を、「読める学習」のまごころを年間2作品以上作る。 ・3学期に、発表する対象を定めた、学習の成果発表を行う。	B	・「読める」「まごころ」「読書する」学習活動については、1月の学習の成果発表会で発表される。学習の成果は、活用されていると感じる。 ・学校図書館は、活用されていると感じる。	・読書科の授業は継続し、「読める学習」のまごころを年間2作品以上作る。また、読書科の授業は、活用されていると感じる。	
体力向上	・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・なわとびチャレンジワークに取り組み、体力を向上させる。 ・毎週水曜日中休みを「くぐくん水曜日」と設定し、学級や学年で運動遊びに取り組む。 ・本校オリジナルの準備運動「確二エクササイズ」に全学年で取り組み、体力を向上させる。 ・競技の専門家を招いた体育科の学習を計画して実施する。 ・校内で体育授業についての研修を行う。	・年間3回の機会を通して、なわとびカードに記録しながら取り組むことで、できる枚や回数が増えるようにする。 ・毎週「くぐくん水曜日」の日に、怪我や体調不良の児童を除く全員が学級や学年で設定した運動遊びに取り組む。 ・体力テストにおいて、2スコアの底50(対全国)を超える学年を昨年度よりも増加させる。 ・競技の専門家を招いた体育科の学習を年間3回実施する。 ・年間3回の研修を通して、体育授業の指導法を校内の教員で学び合う。	B	B	B	・1学期に3回、なわとびカードに記録しながら取り組みを行った。 ・2、3学期も計画中である。	B	・体力向上に向けて、様々な取り組みを行っていると感じる。	B	・年間3回、なわとびカードに記録しながら取り組みを行った。 ・3学期は懸念の記録更新に向けての取り組みも行った。	B	・体力向上に向けて、様々な取り組みを行っていると感じる。	・なわとびチャレンジワークに継続して取り組む。	
	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	B	B	B	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	B	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	B	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	B	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	
	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	B	B	B	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	B	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	B	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	B	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	・アスリートなどの体力向上に向けた取組	
教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた関心に応じた指導の実施・充実	・エンカレッジルーム(ほっとルーム)を活用する。	・支援を必要とする児童が利用できるよう、担任と巡回指導教員、特別支援専門員などが協力して学習指導を始める。すでに活用している児童に対しては、毎週の指導後に、学習の様子や成果を共有し、日々の指導に生かす。 ・巡回指導にかかると児童の個別指導計画、配慮を要する児童に対する共有シートを作成し、全教職員がその内容を周知し、児童一人一人に合った対応をする。	B	B	B	・エンカレッジルーム(ほっとルーム)を活用する。 ・支援を必要とする児童が利用できるよう、担任と巡回指導教員、特別支援専門員などが協力して学習指導を始める。すでに活用している児童に対しては、毎週の指導後に、学習の様子や成果を共有し、日々の指導に生かす。 ・巡回指導にかかると児童の個別指導計画、配慮を要する児童に対する共有シートを作成し、全教職員がその内容を周知し、児童一人一人に合った対応をする。	B	・児童相談所等の機関や、スクールカウンセラーなどが活用されていると感じる。	B	・児童相談所等の機関や、スクールカウンセラーなどが活用されていると感じる。	B	・児童相談所等の機関や、スクールカウンセラーなどが活用されていると感じる。	・エンカレッジルーム(ほっとルーム)の活用をすすめる。	
	・不登校・いじめ対応の充実	・「Hyper Q-U」「L-Gate」を実施し、学級の実態を把握し、より良い学級集団を形成する。 ・全児童を対象として、学校生活を振り返るアンケートを実施する。 ・関係機関と連携し、不登校対策を行う。	・「L-Gate」を毎日実施し、日々の変化を確認する。 ・「Hyper Q-U」を1学期に実施し、児童の学校満足度等を把握する。 ・年間3回のアンケートを行い、児童の実態を把握する。 ・家庭や児童相談所等の関係機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を図りながら、不登校傾向にある児童の出席回数、教室に入れる頻度を増加させる。	B	B	B	・「L-Gate」を毎日実施し、日々の変化を確認する。 ・「Hyper Q-U」を1学期に実施し、児童の学校満足度等を把握する。 ・年間3回のアンケートを行い、児童の実態を把握する。 ・家庭や児童相談所等の関係機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を図りながら、不登校傾向にある児童の出席回数、教室に入れる頻度を増加させる。	B	・様々な方法で、児童の実態を把握し、指導に活かそうとしていると感じる。	B	・「L-Gate」を毎日実施し、日々の変化を確認する。 ・「Hyper Q-U」を1学期に実施し、児童の学校満足度等を把握する。 ・年間3回のアンケートを行い、児童の実態を把握する。 ・家庭や児童相談所等の関係機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を図りながら、不登校傾向にある児童の出席回数、教室に入れる頻度を増加させる。	B	・様々な方法で、児童の実態を把握し、指導に活かそうとしていると感じる。	・Hyper Q-U、「L-Gate」、学校生活を振り返るアンケートを確実に実施する。	
	・教育相談の強化	・生活指導連絡会を実施し、情報を共有する。	・月に1回、全教職員参加の生活指導連絡会を実施し、児童の情報を共有する。 ・いじめ認知件数を減少させる。	・月に1回、全教職員参加の生活指導連絡会を実施し、児童の情報を共有する。 ・いじめ認知件数は増加している。	C	C	C	・月に1回、全教職員参加の生活指導連絡会を実施し、児童の情報を共有する。 ・いじめ認知件数は増加している。	D	・児童の情報が共有され、指導に生かされていると感じる。 ・いじめ認知件数の増減については、分からない。	D	・月に1回、全教職員参加の生活指導連絡会を実施し、児童の情報を共有する。 ・いじめ認知件数は増加している。	D	・児童の情報が共有され、指導に生かされていると感じる。 ・いじめ認知件数の増減については、分からない。	・生活指導連絡会を実施し、情報を共有する。
学校(園)の地味な取組	・学校(園)ホームページの充実	・学校ホームページでは、校長日記や学校日記の更新頻度を高め、教育活動を地域・保護者に周知する機会を増やす。 ・学校公開では、各教科等の授業だけでなく、副校長や教員を招いた活動も実施し、様々な教育活動が地域・保護者に公開できるようにする。	・学校ホームページにおける校長日記、もしくは学校日記の更新頻度を1回以上以上にする。 ・学校公開では、ゲストティーチャーを招いた活動を全学年で1回以上実施する。	B	B	B	・学校ホームページにおける校長日記、もしくは学校日記の更新頻度を1回以上以上にする。 ・学校公開では、ゲストティーチャーを招いた活動を全学年で1回以上実施する。	B	・学校ホームページで顕察に情報が発信されていると感じる。	B	・学校ホームページで顕察に情報が発信されていると感じる。	B	・学校ホームページで顕察に情報が発信されていると感じる。	・学校ホームページで顕察に情報が発信されていると感じる。	
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・1学期中に学校関係者評価の内容を周知し、2学期の職員会議で中間評価を共有し合う。また、毎月末の夕会にも具体的な取り組みや成果指標を確認し合うことで、本校で設定した重点項目の達成を目指す。	・6項目以上で自己評価の取組と成果がB基準以上になっている。	B	B	B	・6項目以上で自己評価の取組と成果がB基準以上になっている。	B	・一定以上の基準を満たしていると感じる。	B	・6項目以上で自己評価の取組と成果がB基準以上になっている。	B	・一定以上の基準を満たしていると感じる。	・1学期中に学校関係者評価の内容を周知し、2学期の職員会議で中間評価を共有し合う。また、毎月末の夕会にも具体的な取り組みや成果指標を確認し合う。	
	・学校行事の精進	・学校行事を精進して、適切な授業時数・諸会議を設定する。 ・副校長補佐やSSSを積極的かつ効果的に活用する。 ・教科担任制の実施(3年生以上)により、授業の準備にかかる時間を減少させる。	・1ヶ月の在任時間が正規の勤務時間から45分時間を超えない。かつ1ヶ月間の定時外在任等時間(360時間を超えない)教職員の数を前年度より増加させる。	C	C	C	・1ヶ月の在任時間が正規の勤務時間から45分時間を超えない。かつ1ヶ月間の定時外在任等時間(360時間を超えない)教職員の数は増加していない。	D	・教職員の在任時間については、分からない。	D	・1ヶ月の在任時間が正規の勤務時間から45分時間を超えない。かつ1ヶ月間の定時外在任等時間(360時間を超えない)教職員の数は増加していない。	D	・教職員の在任時間については、分からない。	・1ヶ月の在任時間が正規の勤務時間から45分時間を超えない。かつ1ヶ月間の定時外在任等時間(360時間を超えない)教職員の数は増加していない。	
教育の展開	・教員同士が高めあう校内研究の実施	・教員同士が授業を見合い、指導や助言をし合うことで、学校全体の授業力向上を図る。	・9月、1月の2回において、互いに授業を見合う。加えて、年間2回の代表授業を行い、全教職員で授業観察、検討を行う。	B	B	B	・9月、1月の2回において、互いに授業を見合う。加えて、年間2回の代表授業を行い、全教職員で授業観察、検討を行う。	D	・教員同士が互いに指導助言をし合い、指導力を高められているかどうかは、分からない。	D	・9月、1月の2回において、互いに授業を見合う。加えて、年間2回の代表授業を行い、全教職員で授業観察、検討を行う。	D	・教員同士が互いに指導助言をし合い、指導力を高められているかどうかは、分からない。	・教員同士が授業を見合い、指導や助言をし合うことで、学校全体の授業力向上を図る。	